

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

1 建学(前)

（ 受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。
 本日の受験地 仮受験番号 仮一 ）

平成 22 年度

1 級建築施工管理技術検定試験

学科試験問題（午前部）

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 18 ページです。
2. 試験時間は、10 時から 12 時 20 分です。
3. 問題の解答の仕方は、下記によってください。
 - イ. [No. 1]～[No. 15]までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。
 - ロ. [No. 16]～[No. 20]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
 - ハ. [No. 21]～[No. 33]までの 13 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
 - ニ. [No. 34]～[No. 45]までの 12 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 解答は、別の解答用紙に、〔HB〕の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
 それ以外のボールペン・サインペン・色鉛筆などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を次の例にしたがって塗りつぶしてください。



7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、よごしたり、折り曲げたりしないでください。
9. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
10. この問題用紙は、午前部の試験終了時まで在席した方のうち、希望者は持ち帰ることができます。途中退席者や希望しない方の問題用紙は、回収します。

※ 問題番号〔No. 1〕～〔No. 15〕までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。

〔No. 1〕 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 室内空気の一酸化炭素の濃度は、100 ppm 以下となるようにする。
2. 第 3 種機械換気方式は、自然給気と排気機による換気方式で、浴室や便所などに用いられる。
3. 必要換気量は、室内の空気環境を良好な状態に保つために必要とされる最小限の取入れ外気量である。
4. 営業用の厨房は、一般に窓のない浴室よりも換気回数を多く必要とする。

〔No. 2〕 日照及び日影に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建物の高さを高くした場合、日影は遠くへ伸びるが、一定の高さを超えると長時間影となる範囲はあまり変化しない。
2. 日照図表を用いると、冬至などの特定日に、対象となる建物が特定の地点に及ぼす日照の影響を知ることができる。
3. 東西に隣接した建物間の北側の少し離れた場所に生じる、長時間日影となる領域を、島日影という。
4. 南面の垂直壁の可照時間は、春分より夏至の方が長い。

〔No. 3〕 マンセル表色系に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. マンセル色相環において、対角線上にある 2 つの色は、補色の関係にある。
2. 明度は、色の明るさを表し、理想的な黒を 10、理想的な白を 0 として、10 段階に分けている。
3. 彩度は、色の鮮やかさの程度を表し、無彩色軸からの距離で示す。
4. マンセル記号「5Y8/10」のうち、数値「8」は明度を表す。

〔No. 4〕 鉄筋コンクリート造の構造計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建物に設けるエキスパンションジョイント部のあき寸法は、建物の高さを考慮する。
2. 柱の変形能力を高めるため、曲げ降伏強度がせん断強度を上回るように計画する。
3. 同一階に同一断面の長柱と短柱が混在する場合は、地震時に短柱の方が先に破壊しやすい。
4. 耐震壁は、地震時にねじれ変形が生じないように、建物の重心と剛心との距離が小さくなるように配置する。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

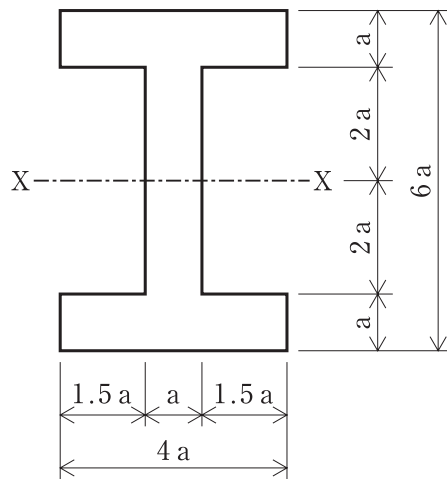
1. 梁に2個以上の貫通孔を設ける場合、孔径は梁せいの $\frac{1}{3}$ 以下、中心間隔は孔径の3倍以上とするのがよい。
2. 柱の主筋の断面積の和は、コンクリートの断面積の0.4%以上とする。
3. 柱の靱性を確保するためには、帯筋の径を太くするよりも、間隔を密にすることや中子筋を用いることが有効である。
4. 梁のあばら筋にD10の異形鉄筋を用いる場合、その間隔は梁せいの $\frac{1}{2}$ 以下、かつ、250 mm以下とする。

[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スカラップは、溶接線の交差による割れ等の溶接欠陥や材質劣化を防ぐために設けられる。
2. 荷重点スチフナーは、H形鋼の大梁と小梁の接合部などに、大梁の座屈補強のために設けられる。
3. 高力ボルトの相互間の中心距離は、ボルト径の2倍以上とする。
4. 十分な管理が行われる場合、完全溶込み溶接の許容応力度は、接合される母材の許容応力度とすることができる。

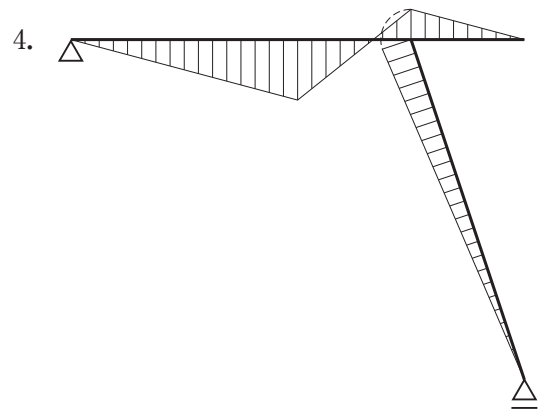
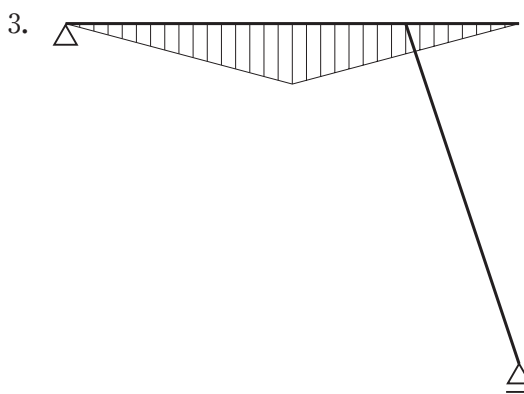
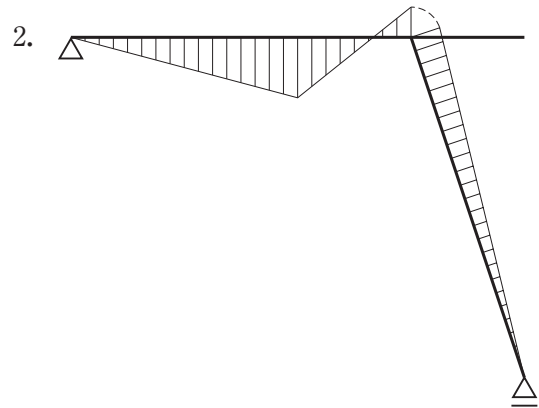
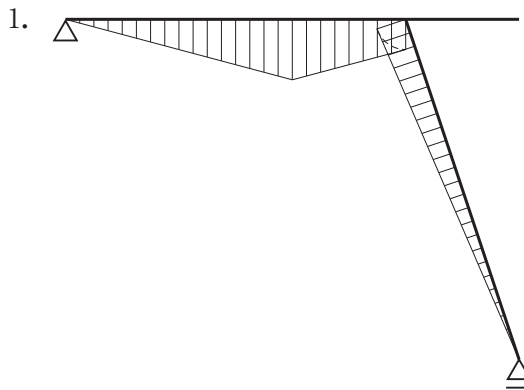
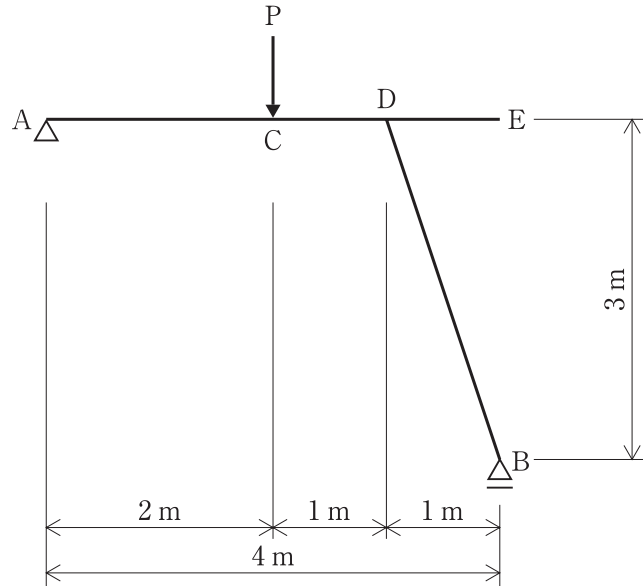
[No. 7] 図に示す断面のX—X軸に対する断面二次モーメントの値として、正しいものはどれか。

1. $16 a^3$
2. $16 a^4$
3. $56 a^3$
4. $56 a^4$



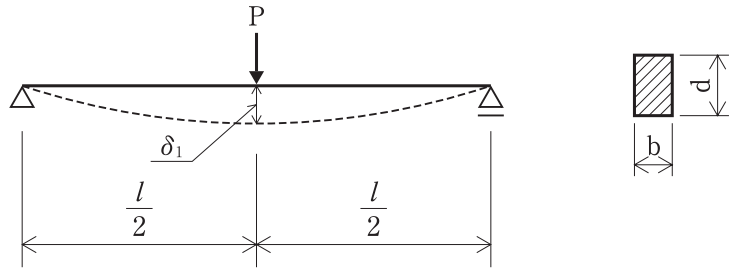
[No. 8] 図に示す架構のC点に集中荷重Pが作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

ただし、曲げモーメントは材の引張り側に描くものとする。

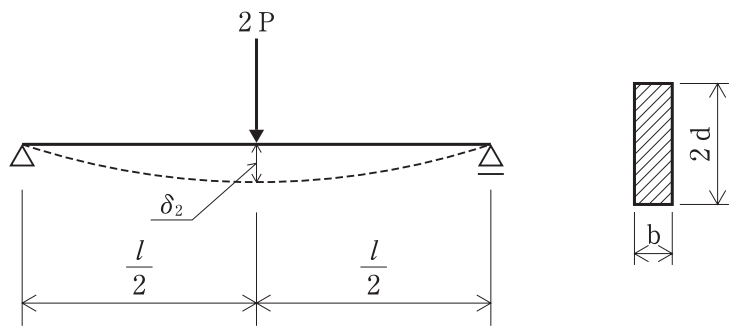


[No. 9] 図に示す梁 A に集中荷重 P が作用したときのたわみ δ_1 と、梁 B に集中荷重 $2P$ が作用したときのたわみ δ_2 との比として、正しいものはどれか。

ただし、梁の材料及び長さは同一で、梁幅は b 、梁せいは d 並びに $2d$ とする。



梁 A



梁 B

1. $\frac{\delta_1}{\delta_2} = 1$
2. $\frac{\delta_1}{\delta_2} = 2$
3. $\frac{\delta_1}{\delta_2} = 4$
4. $\frac{\delta_1}{\delta_2} = 8$

〔No. 10〕 セメントに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 中庸熱ポルトランドセメントは、水和熱の発生を少なくするようにつくられたセメントである。
2. 早強ポルトランドセメントは、セメント粒子の細かさを示す比表面積（ブレン値）を小さくして、早期強度を高めたセメントである。
3. 高炉セメントB種を用いたコンクリートは、普通ポルトランドセメントを用いたものに比べ、化学的な作用や海水に対する耐久性が高い。
4. フライアッシュセメントB種は、普通ポルトランドセメントに比べて、水和熱が小さく、マスコンクリートに適している。

〔No. 11〕 鋼材に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 引張応力とひずみは、下降伏点まで比例関係にある。
2. 炭素の含有量の増加とともに伸びが減少する。
3. ヤング係数は、コンクリートの約10倍である。
4. 構造用鋼材には、主として軟鋼が用いられる。

〔No. 12〕 石材の一般的な特徴に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 花こう岩は、耐磨耗性、耐久性に優れるが、耐火性に劣る。
2. 安山岩は、耐久性、耐火性に劣るが、磨くと光沢がでる。
3. 大理石は、耐酸性、耐火性に劣り、屋外に使用すると表面が劣化しやすい。
4. 凝灰岩は、軟質で加工しやすく、耐火性に優れるが、耐久性に劣る。

〔No. 13〕 日本工業規格（JIS）に規定される金属製折板屋根構成材に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 梁と折板との固定に使用するタイトフレームには、ボルト付きタイトフレーム、タイトフレームだけのもの及び端部用タイトフレームがある。
2. 折板の結合の形式による区分には、重ね形、はぜ締め形及びかん合形がある。
3. 折板の耐力による区分には、1種、2種、3種、4種、5種の5種類があり、1種が最も耐力が大きい。
4. 折板の材料による区分には、鋼板製とアルミニウム合金板製がある。

〔No. 14〕 アスファルト防水材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 有機溶剤タイプのアスファルトプライマーは、ブローンアスファルトなどを揮発性溶剤に溶解したものである。
2. ストレッチルーフィングは、合成繊維不織布にアスファルトを浸透させたものである。
3. 改質アスファルトは、合成ゴム又はプラスチックを添加して性質を改良したアスファルトである。
4. アスファルトルーフィング 1500 は、アスファルトを1巻当たり1,500 g 浸透させたものである。

〔No. 15〕 床材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンポジションビニル床タイルは、ホモジニアスビニル床タイルよりバインダー量を多くした床タイルである。
2. リノリウムシートは、あまに油、松脂、コルク粉、木粉、炭酸カルシウム等を練り込んで、麻布を裏打ち材として成型した床シートである。
3. ゴム床タイルは、天然ゴム、合成ゴム等を主原料とした弾性質の床タイルである。
4. コルク床タイルは、天然コルク外皮を主原料として、必要に応じてウレタン樹脂等で加工した床タイルである。

※ 問題番号〔No. 16〕～〔No. 20〕までの5問題は、全問題を解答してください。

〔No. 16〕 屋外排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 構内舗装道路下の排水管には、遠心力鉄筋コンクリート管の外圧管を使用した。
2. 浸透トレンチの施工において、掘削後は浸透面を締め固め、碎石等の充填材を投入した。
3. 埋設排水管路の直線部の柵は、埋設管の内径の120倍以内ごとに設けた。
4. 合流式下水道に放流するため、雨水系統と汚水系統が合流する合流柵をトラップ柵とした。

〔No. 17〕 照明設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ハロゲン電球は、光色や演色性が良く、店舗などのスポット照明に用いられる。
2. Hf 蛍光ランプは、高効率、長寿命でちらつきが少なく、事務所などの照明に用いられる。
3. 低圧ナトリウムランプは、演色性に優れ、高天井のホールなどの照明に用いられる。
4. 高圧水銀ランプは、長寿命であり、屋外の競技場、公園、庭園などの照明に用いられる。

〔No. 18〕 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 給水タンクの内部に入って保守点検を行うために設ける円形マンホールの最小内法直径は、45 cm である。
2. 屋内の自然流下式横走り排水管の最小勾配は、管径 100 mm の場合、 $\frac{1}{100}$ とする。
3. 通気弁を有しない通気管の末端は、屋根を貫通して大気中に開口する場合、屋根面から 20 cm 以上立ち上げる。
4. 排水トラップの封水深は、阻集器を兼ねるものを除き、5～10 cm とする。

[No. 19] エレベーター設備に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 浸水時管制運転は、地盤面より下に着床階がある場合で、洪水等により浸水するおそれがあるときに、エレベーターを避難階に帰着させるものである。
2. 自家発時管制運転は、停電時に自家発電でエレベーターを各グループ単位に順次避難階に帰着させるものである。
3. 火災時管制運転は、火災時にエレベーターを避難階に呼び戻すものである。
4. 地震時管制運転は、地震感知器との連動によって地震時にエレベーターを避難階に停止させるものである。

[No. 20] 数量積算に関する記述として、「公共建築数量積算基準（国土交通省制定）」上、**誤っているもの**はどれか。

1. 開口部の内法の見付面積が1箇所当たり 0.5 m^2 以下の場合、原則として、型枠の欠除はしない。
2. フープ（帯筋）の長さは、柱のコンクリート断面の設計寸法による周長を鉄筋の長さとする。
3. 溶接の数量は、原則として、種類に区分し、溶接断面形状ごとに長さを求め、すみ肉溶接脚長 9 mm に換算した延べ長さとする。
4. 仕上げの凹凸が 0.05 m 以下のものは、原則として、凹凸のない仕上げとみなした面積とする。

※ 問題番号〔No. 21〕～〔No. 33〕までの**13問題**のうちから、**5問題**を選択し、**解答**してください。

〔No. 21〕 乗入れ構台に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 構台の高さは、躯体コンクリート打設時に、大引下の1階床面の均し作業ができるように考慮して決める。
2. 構台の大引材や根太材の構造計算は、強度検討のほかに、たわみ量についても検討する。
3. 構台の幅が狭いときは、交差部に、車両が曲がるための隅切りを設ける。
4. 構台の支柱の位置は、使用する施工機械、車両の配置によって決める。

〔No. 22〕 根切り工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 軟弱地盤のヒービング対策として、大きな平面を分割して掘削を行い、順次コンクリート等で固めてから次の部分の掘削を行った。
2. 軟弱地盤のヒービング対策として、根切り土を山留め壁に近接した背面上部に盛土して荷重を増やした。
3. 被圧地下水による盤ぶくれ対策として、根切り底面下の地下水位をディープウェルで低下させた。
4. 被圧地下水による盤ぶくれ対策として、止水性の山留め壁を被圧帯水層以深の不透水層まで根入れした。

〔No. 23〕 山留め工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 水平切梁工法における腹起しの継手位置は、切梁と火打梁との間又は切梁に近い位置に割り付ける。
2. 山留め壁の根入れ長さは、山留め壁の掘削側側圧による抵抗モーメントと背面側側圧による転倒モーメントとのつり合いから決める。
3. 山留め壁背面に作用する側圧は、一般に深さに比例して増大する。
4. 鋼矢板山留め壁に用いる鋼矢板の許容応力度は、新品の場合はその数値を割増することができる。

〔No. 24〕 場所打ちコンクリート杭に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. オールケーシング工法において、軟弱粘性土地盤ではヒービング防止のため、ケーシングチューブの先行量を多くする。
2. アースドリル工法における安定液は、必要な造壁性及び比重の範囲でできるだけ低粘性のものをを用いる。
3. リバース工法における1次スライム処理は、底ざらいバケットにより行う。
4. 空掘り部分の埋戻しは、一般にコンクリートの打込みの翌日以降、杭頭のコンクリートが初期硬化をしてから行う。

〔No. 25〕 鉄筋の加工及び組立てに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

ただし、 d は異形鉄筋の呼び名の数値とする。

1. 上下階で柱の断面寸法が異なり、下階の柱の主筋を上階の柱の主筋に連続させるので、主筋の折曲げは、梁せいの範囲で行った。
2. SD 295 Aの鉄筋末端部の折曲げ内法直径の最小値は、折曲げ角度 180° と 90° を同じ値とした。
3. 末端部の折曲げ角度が 135° の帯筋のフックの余長を $4d$ とした。
4. 帯筋の加工において、一辺の加工寸法の許容差を $\pm 5\text{ mm}$ とした。

〔No. 26〕 鉄筋の継手及び定着に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

ただし、 d は異形鉄筋の呼び名の数値とする。

1. 柱に用いるスパイラル筋の重ね継手の長さを、 $40d$ 以上、かつ 200 mm 以上とした。
2. 壁縦筋の配筋において、下階からの縦筋の位置がずれていたため、鉄筋を折り曲げないであき重ね継手とした。
3. 梁下端筋の柱梁接合部への定着は、梁下端筋を曲げ上げる形状で定着させた。
4. 180° フック付き重ね継手の長さは、フックの折曲げ開始点間の距離とした。

[No. 27] 型枠の設計に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. パイプサポートを支保工とするスラブ型枠の場合、打込み時に支保工の上端に作用する水平荷重は、鉛直荷重の5%とする。
2. 合板を型枠に用いる場合は、方向性による曲げヤング係数の低下を考慮する。
3. コンクリートの側圧や鉛直荷重に対する型枠の各部材それぞれの許容変形量は、3 mm 以下とする。
4. 型枠合板の構造計算に用いる材料の許容応力度は、短期許容応力度とする。

[No. 28] コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 粗骨材の最大寸法が大きくなると、所定のスランプを得るのに必要な単位水量は減少する。
2. 細骨材率が大きくなると、所定のスランプを得るのに必要な単位セメント量及び単位水量は多くなる。
3. 単位セメント量が過小の場合、水密性、耐久性は低下するが、ワーカビリティがよくなる。
4. 計画供用期間の級が標準供用級において、普通ポルトランドセメントを用いる場合の水セメント比の最大値は、65%とする。

[No. 29] コンクリートの打込みに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 粗骨材の最大寸法が25 mm の普通コンクリートを圧送する場合、輸送管の呼び寸法は100 A 以上とする。
2. コンクリート内部振動機(棒形振動機)で締め固める場合、一般に加振時間を1箇所60秒程度とする。
3. 高性能 AE 減水剤を用いた高強度コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、外気温にかかわらず、原則として、120分を限度とする。
4. スランプ18 cm 程度のコンクリートの打込み速度の目安は、一般にコンクリートポンプ工法で打ち込む場合、20～30 m³/h 程度である。

〔No. 30〕 鉄骨の工作に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 自動ガス切断機で開先を加工し、著しい凹凸が生じた部分は修正した。
2. 公称軸径が 24 mm の高力ボルトの孔径を 27 mm とした。
3. 鉄骨鉄筋コンクリート造の最上部柱頭のトッププレートに、コンクリートの充填性を考慮して、空気孔を設けた。
4. 半自動溶接を行う箇所の組立て溶接の最小ビード長さは、板厚が 12 mm だったので、40 mm とした。

〔No. 31〕 鉄骨の建方に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 梁の接合部のクリアランスに矢（くさび）を打ち込んで押し広げる方法は、計測寸法が正規より小さいスパンの微調整に用いられる。
2. 鉄骨の建方に先立って行うベースモルタルの施工において、ベースモルタルの養生期間は 3 日間以上とする。
3. 架構の倒壊防止用ワイヤロープを使用する場合、これを建入れ直し用に兼用してはならない。
4. ウェブを高力ボルト工事現場接合、フランジを工事現場溶接接合とする混用接合は、原則として、高力ボルトを先に締め付け、その後溶接を行う。

〔No. 32〕 建設機械に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アースドリル掘削機は、リバース掘削機に比べ、一般により深い掘削能力がある。
2. クラムシェルは、掘削深さが 40 m 程度までの軟弱地盤の掘削に用いられる。
3. ホイールクレーンは、同じ運転室内でクレーンと走行の操作ができ、機動性に優れている。
4. ショベル系掘削機では、一般にクローラー式の方がホイール式よりも登坂能力が高い。

〔No. 33〕 鉄筋コンクリート造の耐震改修工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 柱の鋼板巻き工法において、角形鋼板巻きとするので、鋼板を2つ割りに分割して製作し、現場で溶接により一体化した。
2. 枠付き鉄骨ブレースの設置工事において、現場で鉄骨ブレース架構を組み立てるので、継手はすべて高力ボルト接合とした。
3. 既存壁に新たに増打ち壁を設ける工事において、シヤーコネクターを型枠固定用のセパレーターとして兼用した。
4. 柱と接する既存の袖壁部分に完全スリットを設ける工事において、袖壁の切欠きは、袖壁厚の $\frac{1}{2}$ の深さまでとした。

※ 問題番号〔No. 34〕～〔No. 45〕までの 12 問題のうちから、5 問題を選択し、解答してください。

〔No. 34〕 防水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルト防水の密着工法において、平場のアスファルトルーフィング類の重ね幅は、長手、幅方向とも 50 mm とし、重ね部からあふれ出たアスファルトは、はけを用いて塗り均した。
2. アスファルト防水の密着工法において、平場のルーフィングの張付けに先立ち、入隅は最下層に幅 300 mm のストレッチルーフィングで増張りした。
3. 改質アスファルトシート防水トーチ工法において、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、立上り部の出入隅角部に 200 mm 角の増張り用シートを張り付けた。
4. 改質アスファルトシート防水トーチ工法の平場の張付けにおいて、シートの 3 枚重ね部は、中間の改質アスファルトシート端部を斜めにカットした。

〔No. 35〕 シーリング工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. マスキングテープは、プライマーの塗布前に張り付け、シーリング材の表面仕上げ直後に除去した。
2. 先打ちしたポリサルファイド系シーリング材に、変成シリコーン系シーリング材を打ち継いだ。
3. ワーキングジョイントの目地幅が 20 mm だったので、目地深さは、12 mm とした。
4. 外壁 ALC パネルに取り付くアルミニウム製建具の周囲の目地シーリングは、3 面接着とした。

〔No. 36〕 壁のタイル張り工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 密着張りの張付けモルタルは 2 度塗りとし、その塗り付ける面積は、30 分以内にタイルを張り終える面積とした。
2. 25 mm 角モザイクタイル張りの張付けモルタルの 1 回の塗付け面積は、 3 m^2 とした。
3. 接着剤張りの接着剤は、下地に厚さ 3 mm 程度になるように塗布し、くし目ごてでくし目を立てた。
4. 二丁掛けタイルの改良積上げ張りにおいて、1 日の張付け高さを 1.8 m とした。

〔No. 37〕 金属板葺屋根工事に関する記述として、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 平葺の吊子は、葺板と同種同厚の材とし、幅 30 mm、長さ 70 mm とした。
2. 平葺の小はぜ掛けの下はぜの折返し幅は、10 mm とした。
3. 心木なし瓦棒葺の溝板は、通し吊子を介して留め付けた。
4. 塗装溶融亜鉛めっき鋼板を用いた金属板葺きの留付け用くぎ類は、亜鉛めっき製を使用した。

〔No. 38〕 天井ボード張り用の軽量鉄骨天井下地に関する記述として、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 屋内及び屋外に使用する野縁は、ボード張付け面の幅寸法が、シングル野縁は 25 mm、ダブル野縁は 50 mm のものを用いた。
2. 下地張りがなく、野縁が壁に突き付けとなる場所に天井目地を設けるので、厚さ 0.5 mm のコ形の亜鉛めっき鋼板を野縁端部の小口に差し込んだ。
3. 野縁を野縁受けに取り付けるクリップのつめの向きは、野縁受けに対し同じ向きに留め付けた。
4. ダクト等で直接吊りボルトが取り付けられないので、アングル等の鋼材をダクトと切り離して設け、吊りボルトを取り付けた。

〔No. 39〕 セルフレベリング材塗りに関する記述として、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 下地コンクリートの乾燥期間は、コンクリート打込み後 1 箇月とした。
2. セルフレベリング材を塗る前に吸水調整材（シーラー）塗りを 2 回行い、乾燥させた。
3. コンクリート床面のセルフレベリング材の塗り厚を 10 mm とした。
4. セルフレベリング材塗り後、硬化するまでの間は、窓などを開放して塗り面に風がよく当たるようにした。

〔No. 40〕 鋼製建具に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建具枠は、くつずりの裏面に鉄線を付け、あらかじめモルタル詰めを行った後、取り付けた。
2. 枠及び戸の取付け精度は、ねじれ、反り、はらみともそれぞれ許容差を、 ± 4 mm とした。
3. 建具の表面に付着したモルタルは、直ちに柔らかい布と清水で除去した。
4. ステンレス鋼板製のくつずりは、厚さ 1.5 mm のものを用い、表面仕上げをヘアラインとした。

〔No. 41〕 塗装の欠陥に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の乾燥が不足すると、「色分かれ」が生じやすい。
2. 塗料の流動性が不足すると、「はけ目」が生じやすい。
3. 下地の吸込みが著しいと、「つやの不良」が生じやすい。
4. 素地に水や油が付着していると、「はじき」が生じやすい。

〔No. 42〕 合成樹脂塗り床に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 合成樹脂を配合したパテ材や樹脂モルタルでの下地調整は、プライマーの乾燥後に行った。
2. 施工場所の湿度が 85 % を超える可能性が高かったので、作業を中止した。
3. エポキシ樹脂のコーティング工法では、調合した材料を金ごてで塗り付けた。
4. 塗り床の施工中、直射日光が当たる部分には、仮設の日除け設備を設置した。

〔No. 43〕 壁のせっこうボード張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. せっこう系接着材による直張り工法において、下地の ALC パネル面にはプライマー処理を行った。
2. せっこう系接着材による直張り工法において、1回の接着材の塗付け面積は、張り付けるボード2枚分とした。
3. 木製壁下地に釘打ちする際に、ボード厚の3倍程度の長さの釘を用いて、釘頭が平らになるまで打ち込んだ。
4. 下張りボードへの上張りボードの張付けは、主に接着剤を用い、ステープルを併用して張り付けた。

〔No. 44〕 ALC パネル工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 横壁ボルト止め構法において、パネル積上げ段数5段ごとに受け金物を設けた。
2. 外壁パネルの孔あけ加工は、1枚当たり1箇所とし、主筋の位置を避け、パネル短辺幅の $\frac{1}{6}$ 以下の大きさとした。
3. 外壁パネルと間仕切りパネルの取合い部は、パネル同士のすき間がないように突付けとした。
4. フットプレート構法において、パネル上部の取付けは、面内方向に可動となるように取り付けた。

〔No. 45〕 アスファルト防水改修工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 既存の露出アスファルト防水層の上に、露出アスファルト防水密着工法を行うので、既存防水層表面の砂は可能な限り取り除き、清掃後、アスファルト系下地調整材を 1.0 kg/m^2 塗布した。
2. 既存のコンクリート保護層の上に露出アスファルト防水絶縁工法を行う際、二重ドレンを設けないので、コンクリート保護層は、ルーフドレン端部から500 mmまで四角形に撤去した。
3. 既存のコンクリート保護層を撤去し、防水層を撤去しないで保護アスファルト防水密着工法を行うので、ルーフドレン周囲の既存防水層は、ルーフドレン端部から150 mmまで四角形に撤去した。
4. 既存のコンクリート保護層及び防水層を撤去して保護アスファルト防水絶縁工法を行うので、撤去後の下地コンクリート面の2 mm未満のひび割れ部は、ゴムアスファルト系シーリング材で補修した。

